

# 4年〇組 道徳学習指導案

場所 4年〇組教室  
授業者 小谷 かおり

## 1. 主題構成表

主題名 思いやりの心

資料名 「心の信号機」

出典「みんなのどうとく」学習研究社

■ 内容項目 2 - (2)  
相手のことを思いやり、親切にする。

■ 児童の実態

- ・ 仲間と助け合ったり、励まし合ったりして、仲よく生活することができる。
- ・ 友だちや親しい人に対しては、思いやりをもって行動することができるが、それ以外の人には、あまり積極的になれない傾向がある。

■ 意識の要因

- ・ 誰に対しても親切にしなければいけないことはわかっているが、恥ずかしさや勇気のなさが先立ち、なかなか行動できない。
- ・ 誰かがやってくれるという人まかせな気持ちがある。
- ・ 本当に相手の立場に立って考えるという意識が弱い。

■ 価値の分析

- ・ 人はだれでも、困っている人や立場の弱い人を助けたいという気持ちを持っている。
- ・ しかし、困っている人がいても見て見ぬふりをしたり、手助けしたいと思っても躊躇してしまいすぐに行動に移せなかったりという弱い面も持っている。
- ・ 対人関係にあたっては、行為と結びつかなければ、思いやりの気持ちは伝わらない。このことに気づかせ、実践意欲を育てていくことが大切である。
- ・ 親切な行為は、相手だけではなく自分自身の喜びにもつながるものである価値にも気づかせたい。
- ・ また、親切な行為は、決して哀れみや優越感から起こるものではなく、対等な立場で相手の喜びや悲しみを受け取ることからなされるものであることにも結びつけていきたい。

■ 資料の分析

- ・ 主人公の「ぼく」は、お使いにいく途中で信号機の柱につかまるようにして立っている目の不自由な男の人に出会う。三度も信号が変わったのに、そのまま立っている男の人を見て、気がかりに思いながらぼくは渡る。渡り終えてふり返ると男の人はまだ信号機の柱をつかんで立っていたのを見て、何とかしなければと思うようになっていく。このような姿から、主人公の困っている人を助けたいという気持ちがあることを感じ取ることができる。
- ・ 手助けをしようと思ったもののいざとなると足が進まなくなってしまう「ぼく」の心の葛藤に共感させ、自分たちにもある心の弱さを見つめさせることができる。
- ・ ようやく男の人に声をかけ、横断歩道を渡り終え、ほっとしたときの「ぼく」の気持ちを考えることによって、相手を思いやり、行動することの大切さに気づかせることができる。

■ ねらい  
横断歩道を渡れずに困っている人を見た主人公の声をかけようかどうしようかと葛藤している時の気持ちや、思い切って声をかけた時の気持ちを考えることを通して、相手のことを思いやり進んで親切にしようとする心情を育てる。

■ 展開の構想

- ・ 目が不自由でずっと信号機の前でたたずむ男の人を見て、そのまま立ち去ることができなかった主人公の気持ちを押さえる。
- ・ 困っている様子を見て、助けようと思ってもすぐには行動できなかった主人公の心情に共感させる。
- ・ 自分が人の役に立つことができたときの充実感や気持ちのよさに気づかせる。
- ・ 今までの生活をふり返り、誰に対してでも進んで親切にしようとする心情を高める。

■ 基本発問 (◎中心発問)

- 男の人の様子をうかがいながら立っていたぼくは、どんなことを思っていたのだろう。
- ◎ 男の人になかなか声をかけられずにいたぼくは、どんな気持ちだったろう。
- 男の人を見送ってほっとしたぼくは、どんな気持ちだったろう。

## 2. 授業の展開

段階	学習活動（基本発問と予想される児童の反応）	支援 ・ 留意点
つ か む	<p>(1) 親切について考える。</p> <p>○親切だと思うのは、どんなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている人を助ける。優しくする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親切と思う行為を想起させ、価値への方向づけをする。</li> </ul>
深 め る	<p>(2) 資料「心の信号機」を読んで話し合う。</p> <p>○男の人の様子をうかがいながら立っていたぼくは、どんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っているみたい。どうしよう。</li> <li>・だいじょうぶかな。</li> <li>・声をかけた方がいいかな。</li> </ul> <p>◎男の人になかなか声をかけられずにいたぼくは、どんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰かがやってくれるかな。</li> <li>・知らない人だし、はずかしい。</li> <li>・なんて声をかけたらいいのかな。</li> <li>・よけいなお世話かもしれない</li> <li>・勇気を出して助けなくては。</li> </ul> <p>○男の人を見送ってほっとしたぼくは、どんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・恥ずかしかったけど、声をかけてよかった。</li> <li>・無事に渡れて安心した。</li> <li>・役に立ててうれしい。</li> <li>・喜んでもらえてよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公「ぼく」の気持ちを考えさせながら、資料の読み聞かせをする。</li> <li>・困っている人をそのままにして立ち去ることのできなかった主人公の気持ちを押しさえる。</li> <li>・声をかけようと思いつきながらもなかなか実行に移せなかった主人公の葛藤する心情に共感させる。</li> <li>・行動に移すことの難しさを感じ取らせたい。</li> <li>・児童の反応が、実行に移せなかった気持ちの方に偏ったときの補助発問。 *「声をかけよう」という気持ちはなかったでしょうか。それは、どんな思いからでしょう。</li> <li>・葛藤しながらも、親切な行為をやりとげたときの充実感や満足感をとらえさせる。</li> <li>・相手だけではなく、親切な行為をした側にも喜びがあることに気づかせたい。</li> </ul>
見 つ め る	<p>(3) 自分の生活をふり返る。</p> <p>○親切にしたことはありますか。親切にしようと思ってできなかったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい子が泣いているときに助けた。</li> <li>・おばあさんに席を譲ろうと思ったが、声をかけることができなかった。</li> </ul> <p>(4) 教師の話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちのよさや可能性に気づくことができるようにし、誰にでも進んで親切にしようという心情を高める。</li> </ul>